

# ボランティア・市民活動立ち上げ支援事業（総合科学部分担部分）

（平成16年度分の報告＝2005年02月末現在＝）

## 事業のポイント（3つのテーマで支援活動を行った）

■ 徳島ボランティア・コーディネーター交流学会を支援。

- ① ボランティア・コーディネーターの為のHP作成講座を実施。
- ② モデル広報紙の作成援助。

■ NPO支援諸組織（徳島NPO連絡会議）と連携（『四国NPOフォーラム』の共催）。

■ 「市民が作るユニバーサル徳島」を県と共同してコーディネート。

- ① ユニバーサル徳島マップの運用。
- ② 「街歩き&お試し入力会」の実施。

**事業代表者** 榎田美雄（総合科学部・助教授、E-mail:kashida@ias.tokushima-u.ac.jp）

連絡先）〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部1号館1224室（社会学研究室）

直通電話・ファクス）088-656-9308、wwwサイト）<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>

## 事業の概要＝事業のねらいと構想＝

現代日本社会は充分豊かがかつ複雑である。したがって、これからの社会作りにおいては、公共性を行政にのみ担わせておく訳にはいかない。行政のメカニズムでは、この豊かさにみあって増大しつつある欲望のフレキシビリティ（柔軟性・多様性）に対応できないからである。また、労働のポートフォリオ（賃労働・家事労働・ボランティア活動の3種の労働間での配分比のこと）の変化にともなって、職業生活でもなく、私生活でもない領域に人生の時間を費やしたいと考える市民が増えてきている。したがって、現代社会は、地域作りにおいて、市民セクターを活用する必要性と可能性が高い時代である

といえよう。

ところで、市民の活動能力を十全に引きだすためには、ニーズを集約する点においても、サービス提供者を募集・訓練する点においても、組織的

な対応が必要となる。組織には、広報、管理等の非実質業務部門が必須であるが、この領域はしばしばNPOの設立趣旨外と判断され人材物材が集

まりにくくなっている。この部分を取りわけ組織（非営利組織）の立ち上げ時点において支援するならば、ニーズの変化に対応した NPO 組織が地域を支えていく社会を展望することができるだろう。また大学側からすれば、NPO に関わりこれらの諸事情を理解することは、現代社会研究を行うにあたっての基礎教養を獲得することに等しい。相互の利害は一致するのである。なお、大学が NPO に関わるに当たっては、みずからそのような活動になじみ、市民活動的な感覚とノウハウを身につける必要があるとも思われた。実際、大学は行政でもなく、純粋な市民でもないという特質をもっており、諸事業体の連合体を作る際の結節点となるのに適切である。上記のような認識から、徳島大学がその技術力によって諸事業体同士を結びつける具体的事業として、「ユニバーサル徳島マップの運用」という事業を構想し、その運営を支援した。

### 事業実施による成果と今後の展開

上記の諸目標を達成するために、本年度は、まず、「とくしまボランティアコーディネーター交流学会」と共同で、コーディネーターのための『ホームページ作成研修会』を、2004年11月12日に開催した。会場が満席になる盛況であった。研修会に参加した多くのボランティア・コーディネーターが、実際にホームページを開設した。その後、運用上の質問に答える追加の研修会

が必要だ、という声が強まったため、2005年1月25日に追加研修会を実施した。こちらも盛況であった。

ついで、上記交流学会の広報委員会と共同して交流学会広報紙の第1号を11月末日に発行した。500部をカラー版で発行し、県内各地の役場・病院・福祉施設等で配布した。

また、NPO の組織化を支援するためのあつまりである「四国 NPO フォーラム」を11月13日と14日に徳島大学共通教育棟で共催した。さらに、各 NPO には、事業的に重なる部分があり、うまく連合体が組織できれば、活動を飛躍的に活発化できる、との視点から、試行的に「NPO 等の連合体」をコーディネートし、その活動を支援する試みとして「ユニバーサル徳島マップの運用」に関わる事業も行った。具体的には、大学と県と市民活動組織の連合体として「市民が作るユニバーサル徳島」を組織し、樫田がその代表に就任した。事業としては、「ユニバーサル徳島マップ」の運営を行った。この運用のベースとなる、写真も使えるインターネット上の地図付き掲示板は、総合科学部森太郎研究室の作成によるものである。この事業の意義は以下の通りである。すなわち、大学の技術力でもって、市民が集めている地域の情報（トイレ、道路、橋等の使いやすさに関する情報）と、行政が持っている資源（徳島市中心部の航空写真等）とを統合して、組

み合わせて活用する、というものである。このような資源の組み合わせ利用がさらなる市民参加を呼び込むきっかけとなるならば、本事業は成功したといえよう（2004年の12月から2005の2月まで試験運用した結果を現在解析中である）。

NPOの管理部門における人材養成システムづくりに関しては、今年は「**学生コーディネーターによるインターンシップ・ボランティア促進事業**」をも予算不足で十分なことはできなかったが、事業としては盛りだくさんである。来年度は、別予算をとって、この活動を続けていきたい。

## ＝具体的な事業の成果＝

平成16年11月12日

とくしまITビレッジ（アスティ徳島内）において、「とくしまボランティアコーディネーター交流学会」と共同して、『ホームページ作成研修会』を開催した。受講者は、県社協・各市町村社協等から24名。ホームページビルダーによるホームページの作成を担当者（富士コンピューターサービス）から学んだ（写真参照）。

平成16年11月13日～14日

徳島大学創成学習スタジオにおいて、「四国NPOフォーラム」（統一テーマ：みんなでつくる地域の幸せ）を共催した。本年は徳島県のフォーラムと四国全体のフォーラムの

合同フォーラムであったため、準備会に参加予定の他県代表が台風で来ることができず準備会が順延になるなどの困難もあったが、堀田力氏の基調講演は大変好評で、全体的には成功であったといえよう。開会挨拶には昨年同様、徳島県知事、徳島市市長、徳島大学長の3者が立ち、市民活動を支援する基盤が徳島県でも整いつつあることが見て取れた。

平成16年12月1日～2月10日

『ユニバーサル徳島マップ』（<http://dmuseum.ias.tokushima-u.ac.jp/%7Exps/index.php>）の運用をおこなった。県と大学と市民団体の共同運用組織を立ち上げ、途中、書き込み促進のためのイベント「街歩き&ユニバーサル徳島マップお試し入力会」を行った（12月5日）。この活動は県内各所からの注目をあつめ、多数報道された。なお、この後も随時学生に呼びかけてマップへの入力を行った。

平成16年1月25日

とくしま県民活動プラザにおいて、「とくしまボランティアコーディネーター交流学会」と共同して『ホームページ作成研修会（第2回）』を行った。ホームページビルダーのより応用的な使い方と、データのアップロードを集中的に学習した。

平成16年2月13日

徳島大学 IT フェアに「ボランティア・市民活動立ち上げ支援事業」として参加。『ユニバーサル徳島マップ・操作説明ビデオ』を企画編集し、CD-Rに焼いて配布した。

四国ニュース」内で、1分間なされた。

毎日新聞、平成17年1月20日朝

「ユニバーサル徳島マップ」の紹介が四国4県向けの「研究紹介」欄でなされた。

【上の写真は、ユニバーサル徳島マップの画面】

## ＝マスコミ報道実績＝

四国放送ラジオ、平成16年11月14日朝

「とくしまNPOフォーラム」の紹介が「サンデーウェーブ」内のコーナー「コメンテーター's スペシャル」でなされた。

徳島新聞、平成16年11月14日朝刊

「とくしまNPOフォーラム」の紹介がなされた。

徳島新聞、平成16年12月06日夕刊

「ユニバーサル徳島マップ」の紹介が写真2枚付き、7段抜きでなされた。

四国放送TV、平成16年12月06日夕

「ユニバーサル徳島マップ」の紹介が「F O C U S 徳島」内で、6分間なされた。

四国放送TV、平成16年12月14日朝

「ユニバーサル徳島マップ」の紹介が「朝630」内で、5分間なされた。

NHKTV、平成16年12月20日朝

「ユニバーサル徳島マップ」の紹介が「朝の



